

メキシコの政策金利引き上げについて

ポイント① 政策金利を6.50%に引き上げ

3月30日、メキシコ中央銀行は金融政策決定会合を開催し、政策金利であるオフィシャル・オーバーナイト・レートを0.25%引き上げ、年率6.50%とすることを決定しました。大方の市場参加者が利上げを予想していましたが、利上げ幅については0.25%と0.50%で見方が分かれていました。

ポイント② 利上げペースは減速

利上げは5会合連続となりますが、前会合までの0.50%の利上げ幅に対し、今回は0.25%と利上げのペースは減速しました。

2月のインフレ率は4.9%と、同中銀の目標上限の4%を上回っています。しかしながら、足元のインフレ率は、ガソリン価格の自由化など一過性の要因の影響を受けており、同中銀は、2018年末に向けて目標中心値の3%近辺へ低下していくとの見方を維持しています。

また、メキシコペソの対米ドルレートは、昨年11月の米国大統領選挙におけるトランプ氏の勝利を受けて大幅に下落、今年の1月に最安値をつけましたが、足元、米大統領選挙前の水準近辺まで回復しています。

同中銀は引き続きインフレ抑制に注力する姿勢を維持していますが、為替相場の落ち着きを受け、ペソ安を通じたインフレ圧力に対する懸念がやや和らいだこともあり、メキシコ経済を取り巻く不透明な環境にも配慮し、利上げペースの減速を決定したものと考えられます。

ポイント③ メキシコペソは対米ドルでほぼ変わらず

3月30日の外国為替市場（ニューヨーク時間17時頃）では、メキシコペソは対米ドルで前日比ほぼ変わらず、対円で同0.7%程度のメキシコペソ高となりました。

今後の金融政策については、ペースは減速したものの、一段の利上げを予想する声が市場参加者の間では多く聞かれます。

図1：政策金利の推移



図2：消費者物価指数（前年同月比）の推移



図3：為替レートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

4月7日	消費者物価指数 (3月)
4月11日	鉱工業生産指数 (2月)
4月28日	GDP (国内総生産、1-3月期)